

オタク書誌 追加増補 (抄)

佐々木 隆

※この書誌は「オタク書誌 増補 (抄)」(『ポップカルチャー・若者文化研究』第8号、2022年1月)に追加増補したものである。「オタク書誌 増補 (抄)」ではオタク文化・オタク研究で276文献、[参考1]で12文献、[参考2]では15文献、[参考3]では10文献、[参考4]11資料を取り上げていたが、今回はオタク文化・オタク研究で307文献、[参考1]で13文献、[参考2]では15文献、[参考3]では10文献、[参考4]14資料と追加増補した。

- 001 中森明夫『『おたく』の研究(1) 街には『おたく』がいっぱい』
(6月号)、『『おたく』の研究(2) 『おたく』も人並みに恋をする?』(7月号)、
『『おたく』の研究 おたく地帯に迷い込んだで』(8月号)、『漫画ブリッコ』、
6月～8月号、セルフ出版/発売:日正堂、1983年6月～8月
→ 『おたくの本』、別冊宝島104号、JICC出版局、1989年12月
→ <https://www.burikko.net/people/otaku01.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku02.html>
<https://www.burikko.net/people/otaku03.html>
- 002 大塚英志『物語消費論—「ビックリマン」の神話学』、新曜社、1989年5月
- 003 『おたくの本』、別冊宝島104号、JICC出版局、1989年12月
→ 別冊宝島編集部編『「おたく」の誕生!!』、宝島社、2000年3月
- 004 太田出版編集部編『Mの世代—ぼくらとミヤザキ君』、太田出版、1989年12月
- 005 泉麻人「おたくベスト10」、『POPEYE』、1990年6月6日号、マガジンハウス
- 006 渡辺利博・タラコプロダクション『おたく玉』、太田出版、1990年7月
- 007 粉川哲夫『『おたく族』がメディアを変える—『現実』を『模写』する時代は終わる』、
『エコノミスト』、第69巻第2号、毎日新聞社、1991年1月
- 008 中島梓『コミュニケーション不全症候群』、筑摩書房、1991年8月
- 009 宅八郎『イカす!おたく天国』、太田出版、1991年9月
- 010 浅羽通明『天使の王国—「おたく」の倫理のため』、JICC出版局、1991年10月
- 011 島田裕巳「オタク国家・日本」、島田裕巳編、『異文化とコミュニケーション—オタク
国家・日本の危機』、日本評論社、1991年12月
- 012 広田恵介・目黒譲二『オタクライフ』、データハウス、1992年1月
- 013 大澤真幸「オタク論 カルト・他者・アイデンティティ」、アクロス編集室編、『ポッ
プ・コミュニケーション全書—カルトからカラオケまでニッポン [新] 現象を解明
する』、PARCO出版、1992年7月
- 014 コスモヒルズ『クイズ・パズルの遊園地—もっと深く、もっと楽しく在宅オタク
編>』ベストセラーズ、1992年7月

- 015 Annalee Newitz “Anime Otaku: Japanese Animation Fans Outside Japan”.
Bad Subjects, Issue# 13, April 1994.
→ <http://www1.udel.edu/History-old/figal/Hist372/Materials/animeotaku.pdf>
- 016 小川博司『『おたく』現象とは何だったのか』、林進他『メディア社会の現在』、学文社、1994年4月
- 017 田代順「性同一性、性役割の獲得・形成過程と『おたく』現象—男性学に向けてのひとつの視座」、『家政研究』第26巻、文教大学女子短期大学部家政科、1995年1月
- 018 大澤真幸「付録 オタク論」、『電子メディア論—身体のメディア的変容』、新曜社、1995年6月
- 019 岡田斗司夫「日本に恋する米国のオタク」、『AERA』朝日新聞社、1995年10月
- 020 辻大介「若者におけるコミュニケーション様式変化—若者語のポストモダニティー」、『東京大学社会情報研究所紀要』、第51号、東京大学社会情報研究所、1996年3月
- 021 岡田斗司夫「オタク学開講宣言」、『AERA』、朝日新聞社、1996年3月25日号
- 022 岡田斗司夫『オタク学入門』太田出版、1996年5月
→ 岡田斗司夫『オタク学入門』、新潮社、2008年4月
- 023 青木光恵『ばそこんのみつえちゃん』、アスキー、1996年11月
→ 「ヲタク」(p.42)の初出と言われている。難波功士「戦後ユース・サブカルチャーをめぐって(4): おたく族渋谷系」(『関西学院大学社会学部紀要』第99号、関西学院大学社会学部研究会、2005年11月)が「ヲタク」の初出文献として紹介しているものである。
- 024 Mark Schilling. *The Encyclopedia of Japanese Pop Culture*. Weatherhill, 1997
- 025 岡田斗司夫「新『オタク文化』講座」、清水均編『現代用語の基礎知識』、自由国民社、1997年1月
- 026 岡田斗司夫他『オタクアミーゴス!』、ソフトバンククリエイティブ、1997年3月
- 027 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1997年4月
- 028 ぽにーてーる編『インター・オタク・ネット』、ダイヤモンド社、1997年5月
- 029 『ニューズウィーク日本版』、特集: オタクの世界からメジャーへ、1997年7月
- 030 スタジオ・ハード編『電腦オタクページ』、ゼスト、1997年7月
- 031 おたつきい佐々木『フッ完全おたくマニュアル』、ワニブックス、1997年8月
- 032 間庭充『若者犯罪の社会文化史』、有斐閣、1997年8月
→ オタク又はオタク文化を直接論じているわけではないが、「第3部 現代の閉塞と虚構」は関連性がある
- 033 糸山敏和「宮崎アニメと『おたくアニメ』—『美少女』になれなかった美少女たちのために」、『ユリイカ』、特集: 宮崎駿の世界、第29巻第11号、青土社、1997年8月
- 034 大塚英志・上野俊哉「サブカルおたくはなぜ保守と結びついたか」、『インパクション』、

- 特集：現代・新・保守論壇を読む、第106巻、インパクト出版会、1998年1月
- 035 木村修・児玉勲・水野昌美編『[私をコミケにつれてって!]』、別冊宝島358号、宝島社、1998年1月
- 036 石井久雄『『おたく』のコスモロジー』、『日本教育学大会研究発表要項』、第57巻、一般財団法人日本教育学会、1998年3月
- 037 宇田川岳夫『フリンジ・カルチャー—周辺のオタク文化の誕生と展開』、水声社、1998年4月
- 038 稲増竜夫『『おたく』から広がる新カルチャ』、『This is 読売』、第9巻第1号、読売新聞社、1998年4月
- 039 大塚英志「世界に冠たる"おたく文化"」、『Voice』、第245巻、PHP研究所、1998年5月
- 040 岡田斗司夫編『国際おたく大学』、光文社、1998年7月
- 041 圓田浩二「オタク的コミュニケーション「普通っぽい」アイドルと三つの距離」、『ソシオロジ』、第43巻第2号、社会学研究会、1998年10月
- 042 西垣通『メディアの森—オタク嫌いのたわごと』、朝日新聞出版、1998年10月
- 043 岡田斗司夫『オタクの迷い道』、文藝春秋、1999年3月
- 044 広田恵介・目黒譲二『オタクライフ』（データハウス、1999年3月）のおも
- 045 唐沢俊一・志水一夫『トンデモ創世記2000—オタク文化の行方を語る』、イーハトーヴ、1999年8月
- 046 岡田斗司夫・田中公平・山本弘『史上最強のオタク座談会 封印』、音楽専科社、1999年8月
- 047 大森望「SW おたくたちのSW 狂騒曲（『スター・ウォーズ』とジョージ・ルーカス）」、『文芸』、第38巻別冊、河出書房新社、1999年8月
- 048 Sharon Kinsella. *Adult Manga: Culture & Power in Contemporary Japanese Society*. Routledge, 2000
- 049 稲増龍夫『『カリスマ』とは『おたく』である!』、『潮』、第492巻、潮出版社、2000年2月
- 050 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』、太田出版、2000年4月
→Saito Tamaki. J. Keith Vincent and Dawn Lawson, translators. *Beautiful Fighting Girl*. University of Minnesota Press, 2011)
- 051 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会2 回収』、音楽専科社、2000年4月
- 052 エチンヌ・バラール／新島進訳『オタク・ジャポニカ』、河出書房新社、2000年5月
- 053 岡田斗司夫・山本弘・田中公平『史上最強のオタク座談会3 絶版』、音楽専科社、2000年7月
- 054 太田啓之「オタクの悲劇」、『AERA』、第13巻第45号、朝日新聞社、2000年10月
- 055 片桐雅隆『自己の構築と「語り」の変遷』博士論文、早稲田大学、2000年11月
「第5章 日本における自己の「語り」変遷・人間類型の変遷をとおして」のう

ち「4節 新人類やオタクと他者の縮小」

- 056 西井一夫編『社会主義の終焉 オタクの時代 1989』、毎日新聞社、2000年12月
→ 副題に「オタクの時代」とあるが、オタクのことを直接取り扱っているものはない。
- 057 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会 1 ヨイコ』、音楽専科社、2001年5月
- 058 大塚英志・東浩紀「特別対談 批評とおたくとポストモダン 大塚英志×東浩紀」、『小説 tripper』、(2001 夏季)、朝日新聞出版、2001年6月
- 059 大塚英志『底本物語消費論』、角川書店、2001年10月
- 060 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』講談社、2001年11月
→ Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
- 061 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会 2 ナカヨシ』、音楽専科社、2002年2月
- 062 岡田斗司夫・山本弘他『空前絶後のオタク座談会 3 メバエ』、音楽専科社、2002年10月
- 063 東浩紀他『網状言論 F 改—ポストモダン・オタク・セクシュアリティ』、青土社、2003年1月
- 065 森川嘉一郎『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』、幻冬舎、2003年2月
- 066 鶴岡法斎編著『日本オタク大賞』、扶桑社、2003年4月
- 067 ヨコタ村上孝之「B バージンと欲望の地政学—付・オタクについて」、大阪大学言語文学部・大阪大学大学院言語文化研究科編『現代社会における消費文化の構造と生成』、大阪大学言語学部、2003年4月
- 068 「SOCIETY 日本文化 オタクビジネス、世界へ発進」、『Newsweek』、第18巻第23号、CCCメディアハウス、2003年6月
- 069 永江朗『平らな時代—おたくな日本のスーパーフラット』、原書房、2003年9月
- 070 村瀬ひろみ「オタクというオーディエンス」、小林直毅・毛利嘉孝編『テレビはどう見られてきたのか—テレビ・オーディエンスのいる風景』、新教出版社、2003年11月
- 071 「オタク文化、秋葉原変えた。電腦街からアニメ・ゲームなど趣味の街へ」、『日本経済新聞』、2003年11月8日、日本経済新聞社
- 072 Marc Steinberg “Otaku consumption, superflat art and the return to Edo” (*Japan Forum*, Volume 16, no.3, Taylor & Francis, November 2004.
- 073 大塚英志『「おたく」の精神史—1980年代論』、講談社、2004年2月
- 074 畑智章「オタク・アニメ・村上隆—『スーパーフラット』を巡って」、『年報人間科学』、第25巻、大阪大学大学院人間科学研究科社会学・人間学・人類学研究室、2004年3月
- 075 阿島俊『漫画同人誌エトセトラ'82~'98—状況論とレビューで読むおたく史』、久保

書店、2004年8月

- 076 相田美穂「現代日本におけるコミュニケーションの変容—おたくという社会現象を通して」、『広島修大論集』人文編、第45巻第1号、広島修道大学、2004年9月
- 077 国際交流基金／森川嘉一郎編『おたく：人格＝空間＝都市』、幻冬舎、2004年9月
- 078 大塚英志『物語消滅論—キャラクター化する『私』イデオロギー化する物語』、角川書店、2004年10月
- 079 長山靖生『おたくの本懐』、筑摩書房、2005年1月
- 080 村上隆編『リトルボーイ 爆発する日本のサブカルチャー・アート』、ジャパン・ソサエティー イェール大学出版、2005年3月
- 081 稲葉振一郎『オタクの遺伝子—長谷川裕一・SF まんがの世界』、太田出版社、2005年3月
- 082 本田透『電波男』三オブックス、2005年3月
- 083 斎藤環「おたくのセクシュアリティ 精神分析的視点から」、『人間存在』第11号、京都大学大学院人間・環境学研究科大学院地球環境学堂、2005年3月
- 084 村上隆「『脱力』に宿る芸術の力 おたくの起源たどる『リトルボーイ』展 NYで異例のヒット」、『朝日新聞』、2005年5月16日夕刊、第4面
- 085 「『アキバくん』とはまったく違う分野に存在する女性オタク(女オタク 萌える 女オタク)」、『Aera』、第18巻第32号、朝日新聞出版、2005年6月
- 086 守岡太郎「オタクの消費行動から市場の先を読む オタク市場マーケティング」、『Think!』第14号、東洋経済新報社、2005年7月
- 087 『ユリイカ』、総特集◎オタクVSサブカル!、第37巻第9号、青土社、2005年8月
- 088 相田美穂「おたくをめぐる言説の構成：1983年～2005年サブカルチャー史」、『広島修大論集』、人文編、第46巻第1号、広島修道大学、2005年9月
- 089 野村総合研究所オタク市場予想チーム『オタク市場の研究』、東洋経済新報社、2005年10月
- 090 ササキバラ・ゴウ編『「戦時下」のおたく』、角川書店、2005年10月
- 091 難波功士「戦後ユース・サブカルチャーズをめぐる(4)：おたく族と渋谷系」、『関西学院大学社会学部紀要』、第99号、関西学院大学社会学部研究会、2005年11月
- 092 オタク文化研究会『オタク用語の基礎知識』、マガジン・ファイブ、2006年3月
- 093 杉浦由美子『オタク女子研究—腐女子思想大系』、原書房、2006年3月
- 094 大澤真幸「オタクという謎」、『フォーラム現代社会学』、第5号、関西社会学会、2006年5月
- 095 森川嘉一郎・三浦展「オタクと高速道路」、三浦展『「自由な時代」の「不安な自分」—消費社会の脱神話化—』、晶文社、2006年6月
- 096 宮沢章夫『東京大学「80年代地下文化論」講義』、白夜書房、2006年7月
→ 『東京大学「80年代地下文化論」講義 決定版』、河出書房新社、2015年

11 月

- 097 牟田武生『ジャパंकール 団塊世代と若者・二つの世代が作りあげる新しいコラボレーション』、三松株式会社出版事業部、2006 年 8 月
- 098 堀淵清治『萌えるアメリカ』、日経 B P 社、2006 年 8 月
- 099 パトリック・マシアス／町山智浩訳『オタク・イン・USA—愛と誤解の Anime 輸入史』、太田出版、2006 年 9 月
- 100 「オタク文化の大攻勢 アニメ・お笑い・スシ今ニッポンがかっこいい!」、『週刊ダイヤモンド』、特集：ジョーク集より面白い 世界が見た日本、第 94 巻第 43 号、ダイヤモンド社、2006 年 11 月
- 101 井上努「『楽しさ』としての観光経験の表象に関する考察」、『日本観光研究学会第 21 回全国大会論文集』日本観光研究学会、2006 年 12 月
- 102 Ken Gelder. *Subcultures: Cultural histories and social practice*. Routledge, 2007
- 103 神澤孝宣「二極化するキャラクター消費」、『宝塚造形芸術大学紀要』第 20 号、宝塚造形芸術大学、2007 年 3 月
- 104 歐陽宇亮「『オタク』とは何か—オタク文化の多様性とオタク・イメージの貧困性との矛盾を切り口にして」、『おたくのダイバーシティ サブカル・ポップマガジン まぐま』Volume15、Studio Zero／蒼天社、2007 年 3 月
- 105 井上努「旅行経験に基づく＜観光オタク＞の創作活動と表象」、『立教観光研究紀要』第 9 号、立教大学大学院観光学研究科『立教観光研究紀要』(SAT) 編集委員会、2007 年 3 月
- 106 小山昌宏「図解オタクの形態考 (おたくの多様性(ダイバーシティ))」、『まぐま』、第 15 号、蒼天社、2007 年 3 月
- 107 Joseph Britton “Japan-Otacool Nation Trends of Japanese Otaku Youth”、『大阪府立大学総合科学部言語センター論文集』第 6 巻、大阪府立大学総合科学部言語センター、2007 年 3 月
- 108 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生 動物化するポストモダン 2』、講談社、2007 年 3 月
- 109 岡田斗司夫・唐沢俊一『オタク論!』、創出版、2007 年 4 月
- 110 清谷信一「8 万人動員! 世界最大規模のイベント開催『オタク文化』はなぜこんなにフランスで隆盛なのか」、『創』第 37 巻第 9 号、創出版、2007 年 8 月
- 111 檜村愛子「日本の『オタク文化』はなぜ世界的なものとなったのか」、『文學論叢』、第 136 巻、愛知大学文学會、2007 年 9 月
- 112 竹熊健太郎・伊藤剛・森川嘉一郎「オタク文化の現在 (7) 座談会 オタク・サブカル・サブカルチャー」、『ちくま』通号 438 号、2007 年 9 月
- 113 歌田明弘「日本的なインターネット文化の誕生をめぐって」、生井英考・荒このみ編『文化の受容と変貌』、ミネルヴァ書房、2007 年 11 月
- 114 紙屋高雪『オタクコミュニスト超絶マンガ評論』、築地書館、2007 年 11 月
- 115 『2008 オタク産業白書』、株式会社メディアクリエイト、2007 年 12 月

- 116 ヒロヤス・カイ『オタクの考察』、シーアンドアール研究所、2008年2月
- 117 岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』、新潮社、2008年4月
- 118 杉浦由美子『かくれオタク 9割—ほとんどの女子がオタクになった』、PHP 研究所、2008年4月
- 119 森永卓郎・岡田斗司夫『オタクに未来はあるのか！？—「巨大循環経済」の住人たちへ』、PHP 研究所、2008年5月
- 120 大塚英志・東浩紀『リアルなゆくえ—おたく／オタクはどう生きるか』、講談社、2008年8月
- 121 Azuma Hiroki. Jonathan E. Abel and Kono Shion, translators. *Otaku: Japan's Database Animals*. University of Minnesota Press, 2009.
→ 東浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』、講談社、2001年11月
- 122 早川清他編著『メイド喫茶で会いましょう』、アールズ出版、2008年9月
- 123 大塚英志・東浩紀『リアルなゆくえ』、講談社、2008年8月
- 124 江藤茂博『オタク文化と蔓延する「ニセモノ」ビジネス』、戎光祥出版、2008年10月
- 125 松谷創一郎「＜オタク問題＞の四半世紀」、羽瀨一代編『どこかく問題化＞される若者たち』、恒星社厚生閣、2008年10月
- 126 『國文学』、特集：「萌え」の正体、第53巻第16号、學燈社、2008年11月
- 127 菊池聡「『おたく』ステレオタイプの変遷と秋葉原ブランド」、地域ブランド研究会編『地域ブランド研究』、第4号、地域ブランド研究会、2008年12月
- 128 Renato Rivera “The Otaku in Transition”、『京都精華大学紀要』、第35号、京都精華大学、2009年1月
- 129 清谷信一『ル・オタク フランスおたく物語』、講談社、2009年1月
- 130 吉本たいまつ『おたくの起源』、NTT 出版、2009年2月
- 131 田川隆博「オタク分析の方向性」、『名古屋文理大学紀要』、第9号、名古屋文理大学、2009年3月
- 132 山中智省「『おたく』誕生—『漫画ブリッコ』の言説力学を中心に—」、『横浜国大 国語研究』、第27号、横浜国立大学国語・日本語教育学会、2009年3月
- 133 金田一「乙」彦・編『オタク語事典』、美術出版社、2009年5月
- 134 藤原実『知ってるだけで恥ずかしい現代オタク用語の基礎知識』、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年5月
- 135 伊吹山四郎『オタクの誕生 60年前のアメリカ留学』文芸社、2009年5月
- 136 榎本秋編『オタクの面白いほどわかる本』、中経出版、2009年6月
- 137 『まほら』、特集：オタクツーリズム、第60号、旅の文化研究所、2009年7月
- 138 菊地成孔・大谷能生『アフロ・ディズニー エイゼンシュタインから「オタク＝黒人」まで』、文藝春秋、2009年8月
- 139 折原由梨「おたくの消費行動の先進性について」、『跡見学園女子大学マネジメント

- 学部紀要』、第 8 号、跡見学園大学、2009 年 9 月
- 140 Patrick W. Galbraith. *The Otaku Encyclopedia: An insider's guide to the subculture of Cool Japan*. Kodansha International, 2009
 - 141 浅野智彦「コミュニケーションの失敗／自閉するアイデンティティ」、広田照幸監修／浅野智彦編著『リーディングス日本の教育と社会』、日本図書センター、2009 年 3 月)
 - 142 オタク開発委員会『リア充宣言』、遊タイム出版、2009 年 3 月
 - 143 柳享英『OTACOOOL WORLD OTAKU ROOMS』、壽屋、2009 年 10 月
 - 144 William M. Tsutsui. *Japanese Popular Culture and Globalization*. Association for Asian Studies, Inc., 2010
 - 145 Héctor García. *A Geek in Japan*. Tuttle Publishing, 2010
 - 146 前島賢『セカイ系とは何かーポスト・エヴァのオタク史』、ソフトバンククリエイティブ、2010 年 3 月
 - 147 長田進・鈴木彩乃「都市におけるオタク文化の位置付け」、『慶應義塾大学日吉紀要 社会科学』、第 20 卷、慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2010 年 3 月
 - 148 吉田健「映像ソフト売上に見るメディアの発展とオタクの関連についての一考察」、『研究紀要』、常磐会学園大学、第 10 卷、2010 年 3 月
 - 149 脇坂幸恵『幻根と幻蕾の精神“オタク”女性たちとなりきりメールについて』、博士論文、大阪芸術大学、2010 年 3 月 23 日
 - 150 斎藤環『博士の奇妙な成熟ーサブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010 年 5 月
 - 151 鏡裕之『非実在青少年論ーオタクと資本主義』、愛育社、2010 年 6 月
 - 152 ツルシカズヒコ『「週刊 SPA!」黄金伝説 1988~1995 おたくの時代を作った男』、朝日新聞出版、2010 年 6 月
 - 153 暮沢剛巳『キャラクター文化入門』、NTT 出版、2010 年 12 月
 - 154 梶原健太郎・高木秀明『「おたく」の趣味についての一研究』、『横浜国立大学教育科学部紀要』、I, 教育科学、第 13 卷、2011 年 2 月
 - 155 池田太臣「オタクの“消滅”〜オタクイメージの変遷」、『女子学研究』第 1 号、甲南女子大学女子学研究会、2011 年 3 月
 - 156 安田誠『オタクのリアルー統計からみる毒男の人生設計』、幻冬舎、2011 年 3 月
 - 157 出原健「相同性ー『オタク文化』の場合」、『彦根論叢』、第 388 号、滋賀大学経済学会、2011 年 6 月
 - 158 浅野智彦『若者の気分ー趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011 年 6 月
 - 159 佐々木隆「気になる言葉⑩ オタク／オタク文化」、『むらおさ』、第 14 号、むらおさ同人会、2011 年 7 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronta/ronta39.pdf>
 - 160 大倉韻「現代日本における若年男性のセクシュアリティ形成についてー『オタク』男性へのインタビュー調査から」、『社会学論考』、第 32 卷、首都大学東京・都立

大学社会学会研究会、2011 年 10 月

- 161 Patrick W. Galbraith. *Otaku Spaces*. Chin Music Press, 2012
- 162 Mizuko Ito, Daisuke Okabe, and Izumi Tsuji, editors. *Fandom Unbound: Otaku Culture in a Connected World*. New Haven & London: Yale University Press, 2012
→ 宮台真司監修／辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像力のリミット』（筑摩書房、2014 年 3 月）
- 163 別宮玲「本当にオタクは IT に強いのか?: オタクレベル及び IT レベルの設定と、その相関関係の研究」、『戸板女子短期大学研究年報』、第 55 巻、2012 年 1 月
- 164 辻泉「オタクたちの快樂」、小谷敏他編『＜若者の現在＞文化』、日本図書センター、2012 年 3 月
- 165 Patrick W. Galbraith. *Becoming-otaku: men, girls and movement in Akihabara*. 博士論文、東京大学、2012 年 3 月 22 日
→ 日本語タイトル『オタクへの生成変化：秋葉原における男性と少女のムーブメント』
- 166 佐々木隆「大学教育とオタク文化」、『比較文化史研究』、第 13 号、比較文化史学会、2012 年 3 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronkoku/ronkoku19.pdf>
- 167 辻泉「オタクの快樂」、小谷敏他編『＜若者の現在＞文化』、日本図書センター、2012 年 3 月
- 168 本郷和人「東大教授、おたく、駆け出しのファンとして…おたく文化を許容する国に咲いた大輪のひまわり」、『中央公論』、第 127 巻第 6 号、中央公論新社、2012 年 3 月
- 169 池田太臣「オタクならざる「オタク女子」の登場—オタクイメージの変遷」、馬場伸彦・池田太臣編、『「女子」の時代!』、青弓社、2012 年 4 月
- 170 村上隆／美術手帖編『村上隆完全読本美術手帖記事 1992-2012』、美術出版社、2012 年 6 月
- 171 辻泉「アニメーション・マニア、オタクという幻想」、横田正夫・小田正志・池田宏編『アニメーションの事典』、朝倉書店、2012 年 7 月
- 172 佐々木隆「気になる言葉⑬ オタク文化系の大学」、『むらさお』、第 16 号、むらおさ同人会、2012 年 7 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronta/ronta41.pdf>
- 173 難波功士・濱野智史「“ヤンキー”と“オタク”について語り尽くす」、『宣伝会議』、第 845 号、宣伝会議、2012 年 9 月
- 174 辻泉「オタクの現在を考える」、『青少年問題』、第 59 巻、秋季、第 648 号、一般財団法人青少年問題研究会、2012 年 10 月
- 175 嶽本野ばら『もえいぬ—正しいオタクになるために』、集英社、2012 年 7 月
- 176 佐々木隆『オタク文化論』、イーコン、2012 年 12 月

- 177 大塚英志『物語消費論改』、アスキー・メディアワークス、2012年12月
- 178 鈴木隆之「『オタク』の履歴書—『オタク』の文化人類学研究のための試論—」、『政治学研究論集』、第37号、明治大学大学院、2013年2月
- 179 Bradley Joff Peter Norman “Is the Otaku Becoming Overman?”、『東洋大学人間科学総合研究所紀要』、第15巻、東洋大学人間科学総合研究所紀要編集委員会、2013年3月
- 180 田名部生来 監修・著『田名部生来のオタクカルチャー大全』、別冊タナブ島、宝島社、2013年6月
- 181 浅野智彦『「若者」とは誰か—アイデンティティの30年』、河出書房新社、2013年8月
- 182 寺尾幸紘『オタクの心をつかめ』、SBクリエイティブ、2013年10月
- 183 團康晃「『おたく』の概念分析—雑誌における『おたく』の使用の初期事例に着目して」、『ソシオロギス』、第37号、ソシオロギス、2013年10月
- 184 薄葉彬貢『世界アニメ・マンガ消費行動レポート』、薄山館、2014年1月
- 185 加藤裕康「若者論とオタク論の系譜」、『現代風俗学研究』、第15号、一般財団法人現代風俗研究会東京の会、2014年3月
- 186 和田崇「オタク文化の集積とオタクの参画を得たまちづくり—大阪・日本橋の事例」、『経済地理学年報』、第60巻第1号、経済地理学会、2014年3月
- 187 渡邊秀司「オタクの言説—外部との『緊張感』を考えるために—」、『佛教大学大学院紀要 社会学研究科篇』、第42号、佛教大学大学院、2014年3月
- 188 宮台真司監修／辻泉・岡部大介・伊藤瑞子編『オタク的想像リミット』、筑摩書房、2014年3月
- 189 井上努「オタク文化の集積とオタクの参画を得たまちづくり：大阪・日本橋の事例」、『経済地理学年報』、第60巻第1号、経済地理学会、2014年3月
- 190 池田太臣「オタク的コミュニケーションの悦楽：メイドグラフィティ in 大阪」、『女子学研究』、第4巻、甲南女子大学女子学研究会、2014年3月
- 191 入江由規「『ゲスト』へと変貌したオタクたち—アニメ聖地巡礼者の交流から」、『フォーラム現代社会学』、第13巻、関西社会学会、2014年5月
- 192 羽生雄毅「日本発祥の『オタク文化』がインターネットを席卷している」、『クーリエ・ジャポン』、第115巻、講談社、2014年6月
- 193 熊代亨『融解するオタク・サブカル・ヤンキー ファスト風土適応論』、花伝社、2014年10月
- 194 長山靖生『「世代」の正体』、河出書房新社、2014年12月
- 195 藤原香「オタクをやめられない女性たち—オタクとしてのアイデンティティ形成とジェンダー」、『人間文化』、第36巻、神戸学院大学人文学会、2014年12月
- 196 アライヒロユキ『オタ文化からサブカルへ』、織研新聞社、2015年1月
- 197 Patrick W. Galbraith, Thiam Huat Kam, and Björn-Ole Kamm, editors.
Debating Otaku in Contemporary Japan. Bloomsbury, 2015

- 198 しめすへん『現代オタク論～萌えオタクの正体はマイルドヤンキーだった～』、Kindle、2015年2月
- 199 永田大輔「コンテンツ消費におけるオタク文化の独自性の形成過程」、『ソシオロジ』、第59巻第3号、社会学研究会、2015年2月
- 200 檀朋美「『関係的な生きづらさ』をオタクの人間関係から捉える試み—『コミュニケーション不全症候群』の視点から—」、『社会システム研究』、第18号、京都大学大学院人間・環境学研究科 社会システム研究刊行会、2015年3月
- 201 今井信治『メディア空間における「場所」と共同性』：オタク文化をめぐる宗教社会学的研究』、博士論文、筑波大学、2015年3月25日
→今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018年3月
- 202 『コンテンツ文化史研究』、第9号、特集：2011年大会「オタク・ファン・マニア」（オタクである覚悟）、コンテンツ文化史学会、2015年8月
- 203 原田曜平『新・オタク経済—3兆円市場の地殻変動』、朝日新聞出版、2015年9月
- 204 片瀬一男『若者の戦後史—軍国少年からロスジェネまで』、ミネルヴァ書房、2015年9月
- 205 佐々木隆「TV放送のオタク文化への影響」、『日欧比較文化研究』第19号、2015年10月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronkoku/ronkoku26.pdf>
- 206 宮沢章夫『東京大学「80年代地下文化論」講義 決定版』、河出書房新社、2015年11月
- 207 斎藤環『おたく神経サナトリウム』、二見書房、2015年11月
- 208 菊地映輝「オタク化するお台場—文化装置の集積に注目して」、『現代風俗学研究』、2015年12月
- 209 羽生雄毅『OTAKU エリート—2020年にはアキバカルチャーが世界のビジネス常識になる』、講談社、2016年1月
- 210 Kascuk Zoltan. *From geek to otaku culture and back again.* 博士論文、京都精華大学、2016年3月21日
※別タイトル：オタク化するギーク、ギーク化するオタク：ハンガリーのプロデューサーから見たアニメ・マンガ文化の国際的普及およびサブカルチャー的クラストの役割
- 211 中島渉・松原敏・中津野俊太・中村雅子「『迷惑行為』から見えるオタクの境界デザイン」、『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』、第17号、東京都市大学環境情報学部情報メディアジャーナル編集委員会、2016年4月
- 212 大塚英志『二階の住人とその時代 転形期のサブカルチャー私史』（星海社、2016年4月
- 213 山岡重行『腐女子の心理学—彼女たちはなぜBL（男性同性愛）を好むのか？』、福村書店、2016年6月

- 214 『オタク女子の活動記録』、ふゅーじょんぶろだくと、2016 年 7 月
- 215 王男瀟『『オタク論』と系譜学』、『社会学雑誌』、第 31・32 号、神戸大学社会学研究会、2016 年 10 月
- 216 五十嵐輝・小山友介『『おたく』的因子の抽出と『おたくステレオタイプ』の構造の検証—現代の『おたく』と『非おたく』（コンフリクトから見る社会・経済システム）』、『社会・経済システム』、第 37 巻、社会・経済システム学会、2016 年 10 月
- 217 佐々木隆『ポップカルチャー論』、多生堂、2016 年 12 月
- 218 西村青葉『オタクのための法学入門』、Ashikaga Records、2016 年 12 月
- 219 Philip Seaton and Takayoshi Yamamura, editors. *Japanese Popular Culture and Contents Tourism*. Routledge, 2017
- 220 中村一朗「TV ゲーム業界の黎明史」、中村一朗・小林亜希彦『クリエイターのためのゲーム「ハード」戦国史 「スペースインベーダー」から「ポケモン GO」まで』、言視舎、2017 年 1 月
- 221 佐々木隆『今、ポップカルチャーが熱い! otaku, kawaii, emoji も英語に! キャラクターだらけの日本! 』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2017 年 2 月
- 222 ぺろりん先生『アイドルとヲタク大研究読本』、カンゼン、2017 年 2 月
- 223 辻泉「オタクたちの変貌」、小谷敏編『21 世紀の若者論』、世界思想社、2017 年 3 月
- 224 王男瀟『オタク的なアイデンティティと欲望』、博士論文、神戸大学、2017 年 3 月 25 日
- 225 北田暁大・解体研編『社会にとって趣味とは何か—文化社会学の方法規準』、河出書房新社、2017 年 3 月
- 226 大泉実成『オタクとは何か?』、草思社、2017 年 4 月
- 227 南隆太「AKB に観るヤンキー文化とオタク文化の接合関係について」、『応用語文学報』、第 4 号、国立臺中科技大学語文学院、2017 年 6 月
- 228 株式会社ライブ編『二次元世界に強くなる現代オタクの基礎知識』、カンゼン、2017 年 7 月
- 229 永田大輔『『オタクを論ずること』をめぐる批評的言論と社会学との距離に関して』、『年報社会学論集』、第 30 号、関東社会学会、2017 年 7 月
- 230 Howexpert Press and Jessica Roar. *Otaku 101: An Introductory Guide to Learning About the Otaku Pop Culture, Anime, Manga, and More!* Createspace Independent Pub, 2018
- 231 渡邊秀司『『優しい関係』の展開について—オタクを事例とした人間関係の考察にむけて—』、『佛大社会学』、第 42 巻、佛教大学社会学会、2018 年 2 月
- 232 牧野宏紀「学級内における対抗文化としての『オタク文化』」、『奈良大学大学院研究年報』、第 23 号、奈良大学大学院、2018 年 2 月
- 233 今井真治『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』、晃洋書房、2018 年 3 月
- 234 佐々木隆『『広辞苑』（第七版）に見るポップカルチャーの台頭』、『比較文化史研究』

第 19 号、比較文化史学会、2018 年 3 月

- 235 西村青葉『オタク法研究』、第 1 号、オタク法研究会、2018 年 8 月
- 226 佐藤一毅「ラテンアメリカのポップカルチャー「オタク文化」による日本文化伝播」、
『ラテンアメリカ時報』、特集：ラテンアメリカへの日本文化発信、第 61 巻第 2 号、
ラテン・アメリカ協会、2019 年春
- 237 宇野常寛『若い読者のためのサブカルチャー論講義録』、朝日新聞出版、2018 年 3 月
- 238 岡本健『アニメ聖地巡礼の観光社会学—コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析』、法律文化社、2018 年 9 月
- 239 平成オタク研究会編『図解 平成オタク 30 年史』、新紀元社、2018 年 10 月
- 240 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係』、武蔵野学院大学佐々木隆
研究室、2018 年 10 月
- 241 中川右介『サブカル勃興史 すべては 1970 年代に始まった』、KADOKAWA、2018
年 11 月
- 242 山上尚彦・斎藤環・森田展彰・大谷保和「オタク的消費行動と心理不適應の関連の検
討」、『アディクションと家族』、第 34 巻第 1 号、日本嗜癖行動学会、2018 年 12
月
- 243 Patrick W. Galbraith. *Otaku and the Struggle for Imagination in Japan*. Duke
University Press Books, 2019.
- 244 松下戦具「広義化した『オタク』の整理—オタクファッションを考察するために」、『大
阪樟蔭女子大学研究紀要』、第 9 巻、大阪樟蔭女子大学、2019 年 1 月
- 245 小林義寛「『文化 (the cultural)』の文脈化—あるいは雑種化と土着化—」、山本賢二・
小川浩一編『国際コミュニケーションとメディア—東アジアの諸相—』、学文社、
2019 年 3 月
- 246 コミケ Plus 編集部編『必訪東京オタク SPOT ガイド』、エックスワン、2019 年 3 月
- 247 浅野星奈「現代“オタク”事情—キャラクターを活用する地方自治体・博物館（パラ
ダイム・シフト? :—誰が、何が、変えている）」、『調査・情報』、第 3 期、第
547 号、TBS メディア総合研究所、2019 年 3 月
- 248 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』、武蔵野学院大学
佐々木隆研究室、2019 年 5 月
- 249 はちこ『中華オタク用語辞典』、文学通信、2019 年 6 月
- 250 劇団雌猫『本業はオタクです。—シュミも楽しむあの人の仕事術』、中央公論新社、
2019 年 7 月
- 251 菊地映輝「都市空間におけるサブカルチャーの政策的振興に関する研究—文化装置論
から見るコスプレ文化」、慶應義塾大学、2019 年 8 月
- 252 ナリムラ『オタク女子池袋隠れ家ツアー』、ふゅーじょんぷろだくと、2019 年 8 月
- 253 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』、多生堂、2019 年 10 月
- 254 中山淳雄『オタク経済圏創世記—GAFA の次は 2.5 次元コミュニティが世界の主役にな
る件』、日経 B P 社、2019 年 11 月

- 255 Matt Alt. *Pure Invention: How Japan's Pop Culture Conquered the World*.
Crown, 2020.
→ マット・アルト／村井章子訳『新ジャポニズム産業史 1945-2020』、日経 BP、
2021 年 7 月
- 256 山口晶子「オタク女子のグッズ交換に関する考察：Twitter での「お取引引き」に着
目して」、『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』、第 10 巻、武蔵野大学教
養教育リサーチセンター、2020 年 3 月
- 257 小牧瞳「『オタク力』を活かした学習モデルの提案：中学校数学の授業実践の事例か
ら」、『授業実践開発研究』、第 13 巻、千葉大学教育学部授業実践開発研究室、2020
年 3 月
- 258 張瑋容「日本のポップカルチャーとジェンダー研究—オタク文化を中心に」、『ジェン
ダー研究』、第 22 号、公益財団法人東海ジェンダー研究所、2020 年 2 月
- 259 亀山康夫『オタク文化の専門研究機関の発足とその効果：世界オタク研究所の活動か
ら』、博士論文、慶應義塾大学、2020 年 3 月 23 日
- 260 山田智之「オタクの職業観に関わる研究」、『上越教育大学研究紀要』第 39 巻第 2 号、
2020 年 3 月
- 261 高田治樹・菊地学・尹成秀「オタクはどのような印象をもたれてるのか？—オタクカ
テゴリと印象との相互関連性の検討」、『目白大学心理学研究』、第 16 号、目白大
学、2020 年 3 月
- 262 株式会社ライフ編『365 日で知る現代オタクの教養』、カンゼン、2020 年 3 月
- 263 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』、武蔵野学院
大学佐々木隆研究室、2020 年 4 月
- 264 沈美雪「台湾における日本サブカルチャーの受容と現在 —「オタク」の中国語訳語
とオタク文化の広がり」、『中国文化研究』、第 36 巻、天理大学国際文化学部中国
学科研究室、2020 年 7 月
- 265 山岡重行編著『サブカルチャーの心理学—カウンターカルチャーから「オタク」「オ
タ』』、福村出版、2020 年 8 月
- 266 『ユリイカ』、第 52 巻第 11 号、特集：女オタクの現在：推しとわたし、青土社、2020
年 9 月
- 267 岡田努「鉄道オタクの心理学」、『運輸と経済』、特集：交通愛好者が育む市場、第 80
巻第 10 号、交通経済研究所、2020 年 10 月
- 268 小野晃典「運輸・交通を巡るオタク・プロファイリングと戦略的示唆」、『運輸と経済』、
特集：交通愛好者が育む市場、第 80 巻第 10 号、交通経済研究所、2020 年 10 月
- 269 松島勝人「オタク市場における『鉄道』の存在感」、『運輸と経済』、特集：交通愛好
者が育む市場、第 80 巻第 10 号、交通経済研究所、2020 年 10 月
- 270 永田大輔「OVA という発明 「テレビ的なもの」の位置づけをめぐる」、永田大輔・
松永伸太郎編、『アニメの社会学 アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業
論』ナカニシヤ出版、2020 年 10 月)

- 271 MJ Jean. *Anime Culture and Otaku in America: Case Studies of the Influence of Japanese Pop Media on the USA and Emerging Transnational Trends* (Presentation from the Anime Convention Circuit 2010-2014, Independently published, 2021)
- 272 Gianni Simone. *OTAKU JAPAN: The Fasinating world of Japanese Manga, Anime, Gaming, Cosplay, Toys, Idoles and More!* チャールズ・イー・タトル出版、2021 年
- 273 佐々木隆『ことばとオタク文化』、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021 年 1 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/tyosaku1/tyosaku78.pdf>
- 274 松岡正剛『サブカルズ』、KADOKAWA、2021 年 1 月
- 275 山上尚彦・斎藤環・大谷保和・森田展彰「外向性・動機・消費類型に応じたオタクの幸福感の検討」、『アディクションと家族』、第 36 巻第 1 号、日本嗜癖行動学会、2021 年 1 月
- 276 浅野智彦「オタク文化とジェンダー」、『東京学芸大学紀要』(人文社会科学系 II)、第 72 巻、東京学芸大学教育実践研究推進本部、2021 年 1 月
- 277 大倉韻「オタク文化は、現在でも都市のものなのか」、木村絵里子他編『場所から問う若者文化』、大修館書店、2021 年 2 月
- 278 山上尚彦「オタク研究の方法論と留意点」、『江戸川大学紀要』、第 31 巻、江戸川大学、2021 年 3 月
- 279 山田智之「共感力がレジリエンスに与える影響～オタク自認者とオタク非自認者に着目して～」、『上越教育大学研究紀要』、第 40 巻第 2 号、上越教育大学、2021 年 3 月
- 280 岡田努「鉄道オタク青年の対人行動と自己に関する探索的検討」、『金沢大学人間科学系研究紀要』、第 13 巻、金沢大学人間社会研究域人間科学系、2021 年 3 月
- 281 渡邊秀司・長光太志「オタクの人付き合い 『自己責任』と『世間』」、『佛大社会学』、第 45 巻、佛教大学社会学研究会、2021 年 3 月
- 282 Baroody Ahmed. *Watching anime, doing gender : hegemonic masculinity, sexual modesty, and the gendered consumption practices and preferences of Kuwaiti anime fans*. 博士論文、同志社大学、2021 年 3 月
※別タイトル：アニメを見る、ジェンダーを行為する：ヘゲモニックな男性性、性的慎み、ジェンダー消費の実践とクウェート人アニメ・ファンの選択
- 283 山野車輪『オタクが日本を「右翼化」させた—右派+オタク文化試論』、鈴屋出版、2021 年 4 月
- 284 NHK『平成ネット史 (仮)』取材班『平成ネット史 永遠のベータ版』(幻冬舎、2021 年 4 月)
- 285 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究 増補版』(前編)(中編)(後編)、多生堂、2021 年 5 月
※佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』(多生堂、2019 年 10 月)の増補版

- 286 細川怜椰・松村敦・宇陀則彦・堤智昭「PAC 分析を利用したオタクの「布教」に対する意識や態度についての研究」、『情報知識学会誌』、第 31 巻第 2 号、情報知識学会、2021 年 5 月
- 287 小川晶子『オタク偉人伝』アスコム、2021 年 6 月
- 288 佐々木隆「オタク書誌（抄）」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 6 号、ポップカルチャー・若者文化研究会、2021 年 6 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronkoku/ronkoku41.pdf>
- 289 杉浦義典「こころとオタクの幸福感—3つの祝福」、『土木技術』、第 76 巻第 6 号、土木技術社、2021 年 6 月
- 290 松浦優「二次元の性的表現による「現実性愛」の相対化の可能性：現実の他者へ性的に惹かれない「オタク」「腐女子」の語りを事例として」、『新社会学研究』、第 5 巻、新曜社、2021 年 7 月
- 291 マット・アルト／村井章子訳『新ジャポニズム産業史 1945-2020』、日経 BP、2021 年 7 月
→ Matt Alt. *Pure Invention: How Japan's Pop Culture Conquered the World*. Crown, 2020
- 292 Robert Kantan, Lincolon Dexter and Irwing Wong, editor. *The Obsessed: Otaku, Tribes, and Subcultures of Japan*. gestalten, 2022
- 293 佐々木隆「オタク書誌 増補（抄）」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 8 号、2022 年 1 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronkoku/ronkoku46.pdf>
- 294 内藤理恵子『新しい教養としてのポップカルチャー マンガ、アニメ、ゲーム講義』、日本実業出版社、2022 年 3 月
- 295 吉田尚紀『オタクを武器に生きていく』、河出書房新社、2022 年 11 月
- 296 小林航太『オタク六法』、KADOKAWA、2022 年 11 月
- 297 しげの『持続可能なオタク目標 公式解説』、暗黒通信団、2022 年 12 月
- 298 青山弘之監修／天川まなる、條支ヤーセル『戦火の中のオタクたち』、晶文社、2023 年 1 月
- 299 田名部生来編『田名部生来のオタクカルチャー大全』、別冊タナブ島、宝島社、2013 年 6 月
- 300 カレー沢薫『オタクのたのしい創作論』、文藝春秋、2023 年 6 月
- 301 牧和生『オタクと推しの経済学』、カンゼン、2023 年 9 月
- 302 佐々木隆「オタクの原点を求めて—SF と『宇宙塵』」、『日欧比較文化研究』、第 27 号、日欧比較文化研究会、2023 年 10 月
→ <https://www.econfn.com/ssk/ronkoku/ronkoku53.pdf>
- 303 小出祥子編／名古屋短期大学小出ゼミ（2022・2023 年度生）『オタク用語辞典 大限界』、三省堂、2023 年 12 月
- 304 森川嘉一郎「おたく（オタク）」、ジェンダー事典編集委員会編、『ジェンダー事典』

丸善出版、2024 年 1 月

- 305 山崎尚彦『オタク・スペクトラム オタクの心理学研究』、福村出版、2024 年 8 月
306 田中東子『オタク文化とフェミニズム』、青土社、2024 年 9 月
307 永田大輔『アニメオタクとビデオの文化社会学 映像視聴体験の系譜』、青弓社、2024 年 9 月

[参考 1]

- 001 ヴェルナー・ゾンバルト／金森誠也訳『恋愛とぜいたくと資本主義』、至誠堂、1969 年 7 月
→ Werner Sombart. *Liebe, Luxus und Kapitalismus* (1922) の翻訳。
→ 金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』(論創社、1987 年 7 月)、金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』(講談社、2000 年 8 月) もある。
- 002 稲村博『機械親和性対人困難症』、弘文堂、1986 年 7 月
003 成田康昭『「高感度人間」を解説する』、講談社、1986 年 7 月
004 岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』、朝日新聞社、1998 年 11 月
005 加藤晴明「メディア文化と情報接触」、橋本和孝・大澤善信編『現代社会文化論』、東信堂、1997 年 6 月
→ 「カプセル人間」への言及がある
- 005 オタク開発委員会『リア充宣言』、遊タイム出版、2009.3 <US53-J37>
006 斎藤環『博士の奇妙な成熟—サブカルチャーと社会精神病理』、日本評論社、2010 年 5 月
007 初見健一『ぼくらの昭和オカルト大百科—70 年代オカルトブーム再考』、大空出版、2012 年 11 月
008 浅野智彦『若者の気分—趣味縁からはじめる社会参加』、岩波書店、2011 年 6 月
009 斎藤美奈子他『1980 年代』、河出書房新社、2016 年 2 月
010 竹内オサム・西村麻里編『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016 年 2 月
011 須川亜紀子・米村みゆき編『アニメーション文化 55 のキーワード』、世界文化シリーズ、ミネルヴァ書房、2019 年 4 月
012 木村絵里子他編『場所から問う若者文化：ポストアーバン化時代の若者論』、晃洋書房、2021 年 3 月
013 宮入恭平・杉山昂平編『「趣味に生きる」の文化論—シリアスレジャーから考える』、ナカニシヤ出版、2021 年 4 月

[参考 2]

トンデモ本シリーズ他

- 001 ト学会編『トンデモ本の世界』、洋泉社、1995年5月
- 002 ト学会編『トンデモ本の逆襲』、洋泉社、1996年4月
- 003 ト学会編『トンデモ本1999』、光文社、1999年1月
- 004 ト学会編『トンデモ本の世界 R』、太田出版、2001年10月
- 005 ト学会編『トンデモ本の世界 Q』、楽工社、2009年8月
- 006 ト学会編『トンデモ本の世界 S』、太田出版、2004年6月
- 007 ト学会編『トンデモ本の世界 T』、太田出版、2004年6月
- 008 ト学会編『トンデモ本の世界 U』、楽工社、2007年10月
- 009 ト学会編『トンデモ本の世界 V』、楽工社、2007年10月
- 010 ト学会編『トンデモ本の世界 W』、楽工社、2009年10月
- 011 ト学会編『トンデモ本の世界 X』、楽工社、2011年7月
- 012 ト学会編『トンデモ本の世界 Y』、楽工社、2011年7月
- 013 ト学会編『トンデモ本の世界 Z』、文芸社、2012年11月
- 014 ト学会編『タブーすぎるトンデモ本の世界』、サイゾー、2013年8月
- 015 ト学会編『日・中・韓 トンデモ本の世界』、サイゾー、2014年9月

[参考 3]

オタク学叢書

- 001 氷川竜介『20年目のザンボット 3』、オタク学叢書 v.1、太田出版、1997年8月
- 002 中島紳介・斎藤良一・永島収『イデオンの伝説』、オタク学叢書 v.2、太田出版、1998年8月
- 003 鷲巣富雄『スペクトルマン vs ライオン丸—うしおそうじとピープロの時代』、オタク学叢書 v.3、太田出版、1999年6月
- 004 岡島正晃・あさのまさひこ・中島紳介『ボトムズ・アライヴ』、オタク学叢書 v.4、太田出版、2000年8月
- 005 プロレス格闘フィギュアの会『20世紀プロレス格闘フィギュア大全』、オタク学叢書 v.5、太田出版、2000年8月
- 006 石井誠・市ヶ谷ハジメ・岡島正晃『カウボーイビバップ』、オタク学叢書 v.6、太田出版、2001年10月
- 007 西村マリ『アニパロとヤオイ』、オタク学叢書 v.7、太田出版、2002年1月
- 008 氷川竜介『フィルムとしてのガンダム』、オタク学叢書 v.8、太田出版、2002年3月
- 009 切通理作『特撮黙示録—1995-2001』、オタク学叢書 v.9、太田出版、2002年12月
- 010 あさのまさひこ編『海洋堂クロニクル—「世界最狂造形集団」の過剰で過激な戦闘哲学』、オタク学叢書 v.10、太田出版、2002年11月

[参考 4]

矢野経済研究所

- 001 「オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2010 オタク市場徹底研究』、矢野経済研究所、2010年10月
- 002 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2011 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2011年10月
- 003 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2012 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2012年10月
- 004 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2014 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2014年10月
- 005 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2015 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2015年10月
- 006 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2016 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2016年10月
- 007 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2017 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2017年10月
- 008 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2018 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究 2018』、矢野経済研究所、2018年11月
- 009 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2019 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2019年9月
- 010 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2020 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2020年9月
- 011 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2021 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2021年9月
- 012 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・編集『2022 クールジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、2022年9月
- 013 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・

編集『2023 クールジャパンマーケット／オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、
2023 年 9 月

- 014 「クール・ジャパンマーケット/オタク市場の徹底研究」編集プロジェクトチーム調査・
編集『2024 クールジャパンマーケット／オタク市場の徹底研究』、矢野経済研究所、
2024 年 9 月

※2013 年版は確認できなかった。